

毎回立ち上がりのウォーキングではジョギングコース沿いの植物を選んで鑑賞してもらっていますが、今回の対象は櫨の木と決めました。今ジョギングコースの 1500 メートル表示付近で実を付けています。

去年も十一月末のプログラムでこの木を見ました。その時は『櫨紅葉』と呼ばれる一際鮮やかな紅葉を見てもらいましたが、今回は紅葉を鑑賞するには時期尚早です。紅葉前の葉の陰に隠れるように生っている果実を採りあげました。

配布プリントの上辺には二枚の画像を貼り付けました。左は見事に紅葉した櫨の木、右は櫨の実です。そしてその下からその分布、雌雄異株であること、実は蠟の原料になることなどを書きました。

所でこの木が一周 1830 メートルのジョギング・コースの 1500 メートル付近に生えていると云うことは、コースを逆行すれば 300 メートル付近と云うことになります。私はウォーキングのスタートを見送ってからコースを逆行して櫨の木に向かいました。

其処で櫨の木の近くのベンチに座って一行を待ちます。やがて集団が見えてきました。先頭は MT 君、直ぐ後ろに KY 君、一歩後れて大坂 PC。その後はアスリート、ファミリー、コーチが団子状。

と、此処で先頭の MT 君が私の前を通り過ぎようとしてしました。

「止まれ、此処だよ」

彼は慌てて呼び止める私のほうを見て歩を止め『これですか』と言わんばかりに櫨の木を見詰めます。

私は集団に櫨の実を示しながら、蠟燭の原料としては櫨の実、蜜ろう マッコウクジラの脳油などが高級品で、普通品は石油パラフィンから作られること、根皮を乾燥させたものは「止血や解毒などの作用をもつとされ、腫れ物などの治療に用いられる事」を説明しました。

話が此処まで来たとき、集団の中から質問が出ました。

「被れたりしないのですか」

「この木の下で雨宿りして、雨だれに被れたと云う話も有ります。何しろウルシ科の植物ですから。何か特別の製造法とか調理法とかが有るのかも知れません。」

と答えてから

「調べてみないか」

と追加したら OT 君から即答が有りました。

「無理！」

これを良い潮時と再スタートしてもらいました。

ウォーキングの後は二千を走り、その後、短距離グループは東に移動し、冒険広場横の下り坂を全力で走り下りるスピード練習に挑みました。

それから長距離グループからの迎えに応じて一緒に四百を走ってから芝生広場の西端に移動して上がりの体操。十一時を少し回った所で早めの“Let's Go SONS”となりました。

中 村 泰 雄